

片頭痛や緊張型頭痛など、慢性的な頭痛に悩まされている人は多く、患者数は数千万人に及ぶといわれています。多くの頭痛薬が市販され、簡単に手に入れることができるため、これらに助けられている人も少なくないでしょう。

ただ、これらの頭痛薬は使い方によっては頭痛の症状を悪化させてしまう可能性があります、注意が必要です。

頭痛持ちの人が、鎮痛剤の使用を頻繁に繰り返していると、逆に頭痛が誘発されることがあると知られています。

このような鎮痛剤の飲みすぎによって起こる頭痛を薬剤の使用過多による頭痛（薬剤乱用頭痛）といいます。

薬剤乱用頭痛が起こるメカニズムははっきりとはわかりませんが、鎮痛剤の連用によって痛みに対して敏感になり、痛みを感じやすくなることや、脳内物質の変化により片頭痛を起こしやすくなることなどが原因と考えられています。

薬剤乱用頭痛によって頭痛の頻度が増えると、それに伴い服薬頻度も増え、さらに頭痛が頻発するという悪循環が発生し、ますます症状が悪化していく可能性があります。

一般に、頭痛持ちの方で、月に10～15日以上頭痛があつて薬を飲む状態が継続していたり、普段使っている頭痛薬の効きが悪くなっていると感じる方は薬剤乱用頭痛と診断される可能性があります。

薬剤乱用頭痛の治療は使用薬剤の中止が原則になりますが、薬をやめることによって起こる頭痛や、もともと薬を飲む原因になっている頭痛の治療を併せて行うことも必要です。

近年では頭痛専門外来のある病院も増えているので上記のような症状がある方は、専門医のもと、治療を行うことをお勧めします。

